

優秀な人材を介護離職させない！

介護セミナー開催のご提案

株式会社ウィントリア（担当：堤）

info@wintria.jp

電話 03-5860-4307

FAX 050-5808-8702

<http://www.wintria.jp/>



本セミナーのメインメッセージ

介護で仕事をあきらめない

- ・仕事を続けることで、自分の人生も大切にできる
- ・仕事を続けることで、介護の選択の幅が広がる
- ・仕事と両立することで、納得できる介護ができる



誰にでも訪れる「介護」という未来

備えあれば離職なし。仕事と介護の両立を可能に

親や配偶者の介護の問題は働き盛りの会社員に突然訪れます。

1

介護の現状

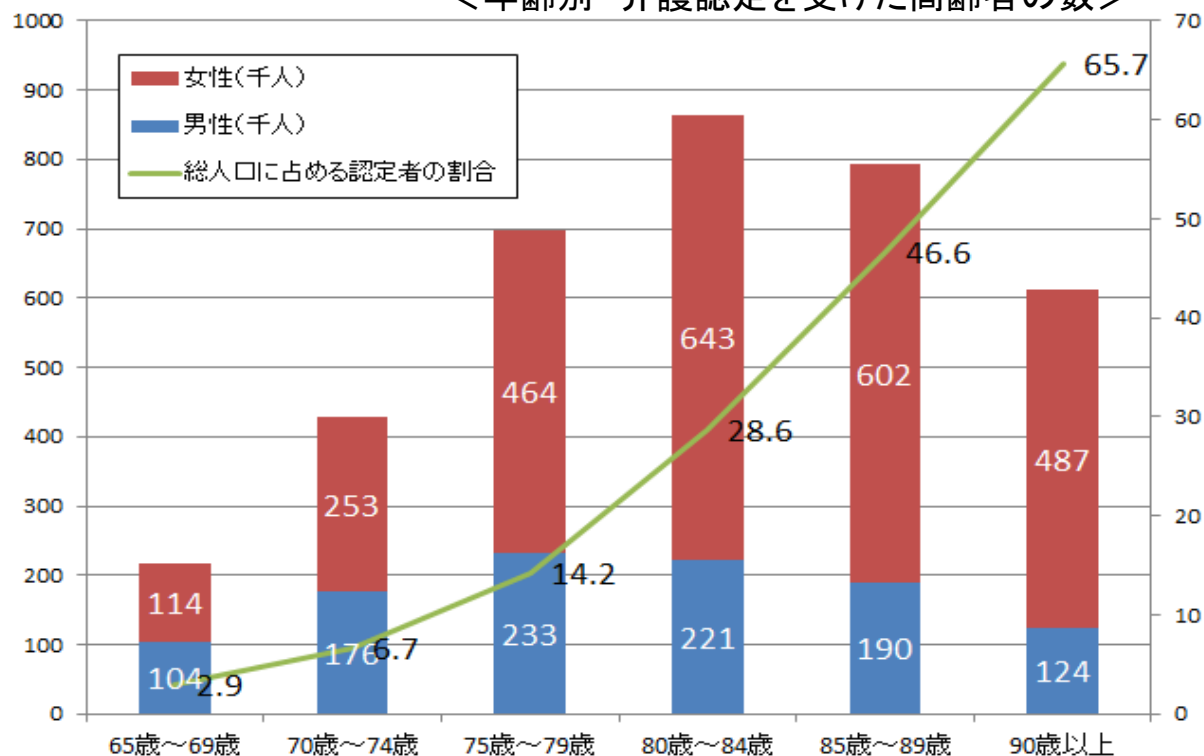
＜介護が必要な高齢者＞

75～79歳 6人に1人

80～84歳 3人に1人

85～89歳 2人に1人

＜年齢別 介護認定を受けた高齢者の数＞



(出典)総務省人口統計(平成16年10月1日現在)厚生労働省資料より

「48万7000人」過去5年間の介護離職者 企業の財産である人材を失わないために

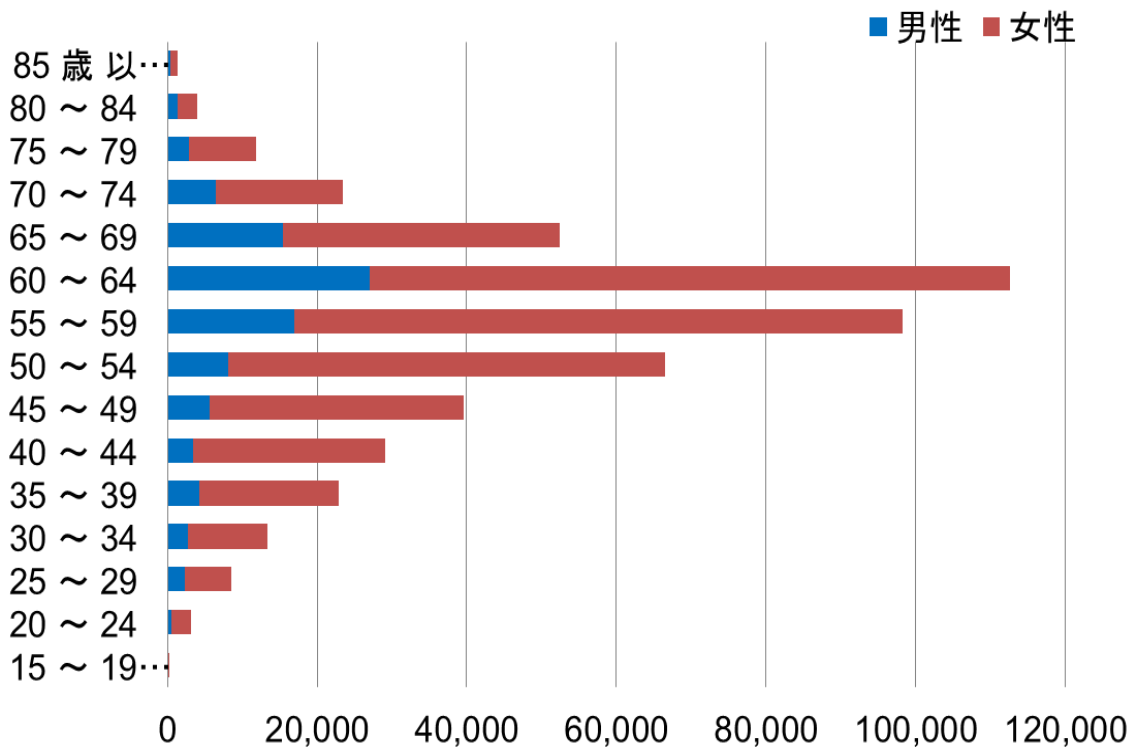
介護離職した人の7割は、40～64歳の働き盛りの人材です。
介護離職後は、想像以上に厳しい現実があります。

2

介護離職の現状

<介護うつ>
4人に1人

(2005年厚生労働省調査)



制度の活用、仕事と介護の両立に 社員のみなさまの意識改革が必要

育児・介護休業法に基づく制度を利用した両立支援、御社では活用されていますか？
「お互い様」の精神を職場に浸透させることが、両立につながります。

3

制度と意識改革



男性の介護の特徴

こんなことありませんか？

4

セミナーポイント

- ①職場での仕事感覚を介護に持ち込む
自分がかけた稼働に対する成果を求めがち
- ②虐待に発展しやすい
力が強い分、少しのことでも虐待に発展しやすい
介護殺人の加害者の75%は男性。
- ③真面目さと責任感が強い
例えば介護日記には「今朝は5:13起床」と記載。
真面目さゆえに自分を責めやすい
- ④人に頼らず自分でやってしまおうとする
周りに相談できず、一人で抱え込みやすい

参考: 男の介護 (吉田利康、日本評論社)

西尾美登里, et al., 『在宅で認知症を有する療養者を介護する男性介護者の対処尺度項目の検討』, バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌, Vol. 16, No1 (2014年)

介護と向き合うにはきっかけが必要

介護セミナーで「知識をアクションに」

5

セミナー内容例

知識

- ◆ 介護保険制度の仕組み・使い方
- ◆ 介護にかかる実際の費用
- ◆ 施設の選び方
- ◆ いざ介護が必要になったときの心構え
- ◆ 介護予防
- ◆ 実際の介護の方法 …

御社のご希望に合わせて調整可能です

アクション

- ◆ 今日からできるリソースの整理
- ◆ 仕事と介護の両立 7つのポイント …



豊富な経験を持つ専門家

わかりやすく実践的なセミナーと好評です

6

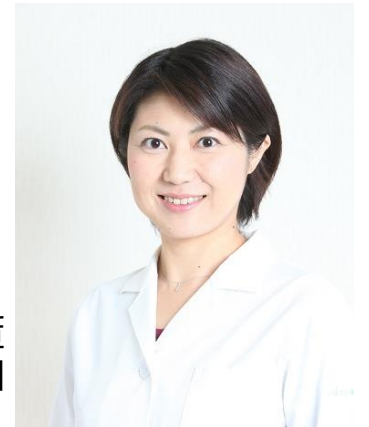
講師紹介

- **中村明澄 (Asumi NAKAMURA)**

医療社団法人澄乃会 向日葵ホームクリニック院長
在宅医療専門医・家庭医療専門医、ケアマネージャー、
介護予防主任運動指導員、健康運動指導士

医療と福祉の両方の視点を持つ稀有な医療者である。

実母を5年間介護し、自身で看取った。心の備えと知識が介護者を支えることを実感し、一人でも多くの方に伝えたいと願っている。医療の専門知識と豊富な事例経験を活かし、臨床の合間を縫って壇上に立つ。知識と経験に裏付けされた納得感の高いセミナーを実施。



- **堤 円香 (Madoka TSUTSUMI)**

医療社団法人澄乃会 向日葵ホームクリニック 事務長
筑波大学医学群 非常勤講師
社会福祉士、キャリアカウンセラー、MPH (公衆衛生学修士)
医療統計学、ヘルスプロモーションが専門。

元 (株) NTTドコモで開発や人事など10年のビジネスキャリアを持つ。企業の最前線で培った企画力とビジネスセンス、マネジメント力、さらには抜群のコミュニケーション力を大きな武器とする。

仕事の意義や仕事を続けることの素晴らしさを広く伝えたいと考え、「両立」をキーワードにセミナーを行っている。



ウィントリアの介護セミナー

セミナーと個別メール相談のご案内

7

セミナー概要

◆介護セミナー

専門家による介護セミナー

一回60分～90分程度

セミナー後の座談会、ワークショップ等の開催も可能です。(有料)

◆セミナー終了後に言葉を交わした参加者からは「いいお話が聞けてとても良かった」、「不安に思っていた介護についての知識が得られて良かった」などの感想を聞くことができました。介護という重くなりがちなテーマですが、皆様の明るい雰囲気に参加者も楽しく前向きに拝聴することができたようです。本当にありがとうございました。(人事ご担当者様)

◆実際に自分が介護を行なう必要に迫られたときに、会社だけでなく担当部署内の多くの人の理解が必要であると強く感じた。今日のような講習会は社員全員が知ってもらいたい内容であった。(ご受講者様)

◆今は元気な親でも、将来の介護について聴講したい社員はもっといると思う。この講演を続けて言って欲しい。聴講後にメールによる相談に乗ってくれるのはとても良いと思います。(ご受講者様)

◆個別メール相談 (Kaigo First Access)

セミナー実施後、社員のみなさまから、介護に関する

お困りや不安に関して、メールでの相談をお受けします



KaigoFirstAccess